

待望の司教訪問



10月10日、3年ぶりに自派司教司式で24名が聖信を受けました。またコロナ禍緊急事態宣言下で延期された8月の落成祭や9月のほほえみの集いも司教様と共に祝うことができませんでした。密を避けるために、聖堂には受聖

者と代父母、ほほえみの集いに与る方々が入り、他の方は新しい信徒会館ホールでネット配信されたミサに与ることになりました。

聖信の秘跡のための勉強会は予定より削られてしまったのですが、お恵みに与るのが秘跡なので、これから後にケアが問われるでしょう。75歳以上（内80歳の特別祝福を受けた方8名）のほほえみの集



第166号

2021年10月31日

発行所

関西カトリック教会

信託会

hikari@gionkyokai.jp

いの方々は、微笑んでいられないほど皆多忙のお姿で神に感謝です。ミサ後、新しい正門の落成祭では「教会に神さまの平和と祝福がありますように」と司教様のお祈りをいただき、新しい正門を背景に集合写真を撮影しました。

ありがとうございます。アーメン
主任司祭 李 相顯

司教様の来訪の喜び、愛する子ども

「まだかな！まだかな！、えらい遅いなー。あつ来られた！」ちよっとした洒落から始まった今回の司教様の公式訪問でした。お遊覧する関係者は、時間が迫るにつれてハラハラドキドキされた方も多かったでしょう。ですが、司教様は必ず来られるんです。なぜなら私達紙面カトリック教会には愛されるから。司教様にとつて教区内の全ての教会は、いわば愛する我が子です。愛する子どもに会いに行かない父親がいるでしょうか。何があっても子どもを守

る、それが父親というものです。幼稚園の子供達は毎日お父さんやお母さんの手を握りしめながら登園し、年後にはお迎えに来たお母さんの手を握りしめて一緒に帰っていきま。そのように私達もいつか手と手を握りしめて歩むのです。司教様の手は、天の父である神様の手です。

ハブニングが始まった今回の司教様の公式訪問でした。喜びに満ちた親子の交わりであったと思います。これを機に益々、互いに手を取り合っ、心をついに歩んで参りましょう。

助任司祭 久保裕己



ざおん
5198

自由期間中、外に出られないためやつたことといえば部屋の掃除だ。普段、忙しいだのめんどくさいだの表れただのいろんな言いつを言いつてやつてこなかったら、全ての言いつが通じないくらいに暇だったため片付けに取掛かった。机の上にはノートやペンや本が散乱し、床には脱ぎっぱなしの服がしわくちゃのまま置いてあるし、よく見なくても本棚には埃が溜まっている。まずは本棚から取り掛かろうと思いつたのだが、昔のアルバムが出てきた。あとはお祭りの通り、気がついたらアルバムを見て過去に思いをはせて、今やらなければならぬと掃除のことなんてお構いなし。気がついたら一日が終わってたり、また今度でいいやとなった。

▲神様に対しての祈りもこんな時があるのではないかと神様に對しての感謝も日常の日々でし、自分だけの気持ちでせいでおがなりになっていることがある。祈ろうと思つても気がついたら自分のことばかり考えてたりする。いつも喜んでいながら、絶えず祈りなさい。全てのことについて、感謝しなさい。(一テサロニケ5、16)掃除は難しいが、一日に一回くらいは全身で神に感謝する時間を作っていきなさい。

瀬良 衛